

患者さんへ ～皮膚筋炎・多発筋炎およびその類縁疾患に関連した間質性肺炎に関する臨床データの研究利用に関するお願い～

平成26年6月2日

間質性肺炎は徐々に肺活量が減少し呼吸困難をきたす慢性疾患です。そのうち約 3 割ほどの方は、関節リウマチなどの膠原病に関係して発病することが知られています。その膠原病のなかでも、皮膚筋炎・多発筋炎は間質性肺炎を合併しやすい疾患のひとつです。この病気は本来自分の体を守るべき免疫細胞が、自分の体(特に皮膚と筋肉)を傷つけていく難病です。

皮膚筋炎・多発筋炎の患者さんの中には、非常に重症化しやすい間質性肺炎が発症することがありますが、こういった方に特徴的な自己抗体(抗 MDA5 抗体)が発見されました。一方、同じく皮膚筋炎・多発筋炎の間質性肺炎の患者さんのなかでも、ステロイドなどの免疫抑制療法が有効な一群があり、これらの患者さんの血液中には抗 ARS 抗体という自己抗体が存在することもわかっています。ただし、これらの自己抗体をもつ方々の臨床的特徴や最適な治療法はまだ十分にわかりません。

私たちは間質性肺炎の患者さんを多数診療している全国の主要な施設と共同で、多数の皮膚筋炎・多発筋炎およびその類縁疾患に関連した間質性肺炎の患者さんの臨床データ(喫煙、血液データ、胸部画像、病理標本、呼吸機能検査、実施された治療内容、その効果判定など)を収集分析し、自己抗体毎の特徴と、この疾患の有効な治療法を検索することを目指しています。対象となる方は、2000年1月1日から2013年12月1日までの間に、皮膚筋炎・多発筋炎およびその類縁疾患に関連した間質性肺炎で当科に受診された方です。

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、判定のために他施設へ試料を提供することがありますが、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究に於いて臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡下さい。

お問い合わせ先:

呼吸器内科

泉 信有

162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

電話:(03)3202-7181 (代)、Fax (03)3207-1038